

エジプトの 2015 年議会選挙：
スィーサー支持者がコントロールする無力な議会
Egypt's 2015 Parliamentary Elections:
Sisi's Loyalists Control a Weak Parliament

エジプトで 2013 年の軍事クーデター後、初の議会選挙が行われた。投票は 2 回に分けて行われ、第 1 回投票は上エジプトと西デルタ地域の 14 県で 2015 年 10 月 18、19 日に実施され、27、28 日に決選投票が行われた。第 2 回投票は残る 13 県で 11 月 22、23 日に行われ、大半の当選者の決定は 12 月 1、2 日の決選投票に持ち越された。

これまでエジプトでは、2011 年 1 月の民衆蜂起後に初の民主的選挙が行われ、現在は禁じられているムスリム同胞団の設立した自由公正党が人民議会 (House of Representatives) の多数派となった。しかし、最高憲法裁判所 (SCC) は議会選挙法が憲法に違反していたとする判決を下し、人民議会は 2012 年 6 月に解散させられ、以降エジプトでは議会不在となっていた。

スィーサーの民主化への「ロードマップ」？

2013 年 7 月 3 日、アブドゥル=ファッターフ・アル=スィーサー率いる軍は、同胞団出身のムハンマド・ムルシー大統領に対する民衆の抗議運動を契機に、エジプトで初の自由で民主的に選ばれた大統領に対しクーデターを起こした。クーデターによって実質的なスィーサー軍事政権が誕生すると、軍は民主化への「ロードマップ」を発表した。この「ロードマップ」は 3 つの重要なステップによって構成されていた。第 1 段階は新憲法の草案、第 2 段階は議会選挙の実施、そして第 3 段階として大統領選挙の実施という 3 行程である。「ロードマップ」の実施は、イスラーム主義者と軍のクーデターに反対する活動家への現代エジプト史上最も激しい弾圧を伴った。治安部隊が街頭での抗議運動を弾圧したことで、数百人が殺され、数千人が逮捕された。抗議運動は犯罪と糾弾され、多くのジャーナリストも投獄された。

ムルシー大統領をクーデターで解任した後、スィーサー体制下で現在までに 4 万 1000 人以上が政治囚として拘束され、数百人が勾留中に死亡したと報じられている。スィーサー政権は大規模な弾圧と政治囚の投獄を繰り返し、政治活動の自由を封じ込めたのである。結果として、2015 年の議会選挙の候補者の大半はスィーサー政権支持者であり、有権者にとっては選択の余地のない選挙となった。このように市民社会の自由が抑圧され、政治活動が厳しく封じ込められた環境で、スィーサー大統領を支持する候補者や政党でさえも、支持者を動員するのは困難だった。

エジプトの議会と選挙制度

現在のエジプト議会は全 596 議席からなり、そのうち 8 割の 448 議席が小選挙区制の個人名簿から選ばれている。全国 205 の小選挙区から、それぞれ 1~4 人の議員が選出される。120 議席は全国を 4 区に分けた選挙区から比例代表制により選出されるが、過半数票を獲得した名簿 (リスト) がそ

の選挙区の議席全てを獲得する仕組みで、女性、キリスト教徒と若者の割り当てが別に決められている。大統領は全議席の 5 パーセントを超えない 28 人までの議員を指名できる。

エジプトの政党の多くは、比例代表制の議席を増やすよう要求してきた。比例代表制で選出する議席が増えれば、小政党も議席を獲得できる確率が高まり、エジプトの多様な政治勢力や声を代表する議会を作ることができる。しかし現在のエジプトの選挙制度は、多様な声を取り込む議会を作ることが妨げている。エジプトの選挙制度は過去数十年にわたり、エジプトの有力な一族のパトロネージ制度として機能してきた。強い政党が出現するのを妨げ、政党が連立して議会で安定した過半数を獲得する事を阻害してきたのである。2015 年議会選挙では、全 596 議席のうち 315 議席を独立系議員が占め、大統領が主導する政党が議会をコントロールするエジプト議会の長い伝統からの大きな転換となった。

2015 年議会選挙と投票率の低迷

2015 年の議会選挙は、2011 年と 2012 年の選挙に比べて投票率が低迷し、反対勢力の参加も非常に限られた。投票率の低迷の理由は、新たな選挙法の不透明さ、候補者の乱立、短い選挙運動期間、議会が実質的にスーサー政権にコントロールされるようになるという見通しなどに起因するとされた。しかし、これらの要因は第二義的なものであり、考慮しなければならない最大の要因は政治的なものであった。すなわち、この議会選挙の意義について有権者が十分に説得させられていなかったという点である。ムバーラク政権転覆後の 2011 年と 2012 年の選挙は、国民の政治参加の余地があり、ポスト・ムバーラク体制の行く先、特に軍の暫定統治から文民統治へと権力を移譲し、新憲法を制定する重要な選挙として国民の関心も高かった。一方、2015 年の議会選挙では、スーサーの民主化への「ロードマップ」が幾度も変更され、ムバーラクやムルサー政権よりも説明責任のある新しい政権が誕生する見込みが低いと見なされたのである。

軍の当初のロードマップでは、議会選挙は大統領選挙の前に実施される予定だった。大統領選挙を先に実施するというロードマップ変更の背景には、国家と社会に対するスーサーの統制力を強化し、大統領に任命された政権の正統性を補強し、議会での審議を通さずに大統領令によって体制を強化するという目的があった。さらに議会選挙は 2014 年 6 月の新大統領就任後 6 ヶ月以内に実施されるはずであったが、明白な理由もなく延期された。スーサーが議会選挙の実施に消極的だった理由として、ムバーラクの国民民主党のように彼が頼ることのできる支配的な政党がなかったことが挙げられよう。さらに議会の不在によって大統領は立法権と行政権を同時に執行することが可能となり、反対勢力が組織化する自由を制限し、自身の支配体制を強化する数百の大統領令を発布している。

2015 年の議会選挙の投票率が低迷した他の理由として、若者の投票率が低かったことも挙げられる。2011 年 1 月のムバーラク体制に反対する民衆蜂起を主導し、またムルサーに対する軍事クーデターへとつながる 2013 年 6 月の抗議運動を先導した勢力は、メディアに誹謗中傷されて投獄されている。司法当局も新たに制定された抗議運動規制法とテロ対策法のもと、ムスリム同胞団を「テロ組織」に認定し、ジャーナリストや活動家を投獄し、2011 年 1 月の民衆蜂起で重要な役割を果たした世俗的な「4 月 6 日運動」を禁じることで、政権の敵対勢力や反対勢力への迫害を手助けしてきた。皮肉

にも、もしムルシー政権下で抗議運動を組織することが禁じられていたならば、民主的に選出されたムルシーに対してスィーサーがクーデターを起こすことは難しかっただろう。

さらに、最も強固な反対勢力であるムスリム同胞団が選挙に参加せず、同胞団の政党である自由公正党が解散させられ、多くの若者が選挙をボイコットしたことも投票率の低迷につながっている。

経済的な視点から見ると、投票率の低迷は、財政赤字の軽減のために燃料やガスに対する補助金を減らし、税率と電気代を引き上げるというスィーサー政権の政策に対する、貧窮化した多くのエジプト国民の不満の高まりも影響しているだろう。人々が投票を棄権したのは、スィーサーの経済政策への反対の意思表示とも受け取れる。

反対勢力の不在によってスィーサー支持陣営との選挙競争は限定され、競争はビジネスエリート、元警察や軍の幹部、スィーサー支持のメディア界の大物の間で、誰がより政権に近づけるかという限られたものになった。2015年の選挙では、これまでと同様に選挙の全過程で正当性を蝕むあからさまな票の買収が行われた。議会選挙の投票率の低さは、投票率の高かった大統領選挙に比べ、議会の正統性を弱め、結果的に政権にとってエジプト国民は大統領をより重要視していると主張できる点で好都合だった。

議会を独占するスィーサー支持連合

スィーサーは議会選挙を非政治化し、議会から政治的影響力を取り除くことに成功した。国民の連帯の名の下、挙国一致の政党リストを期待するというスィーサーの発言を受け、エジプト諜報本部の元高官サーメフ・セイフ・アル＝ヤザル(Sameh Seif al-Yazal)がスィーサー支持の政党連合「エジプトへの愛」リストを作り、政権支持の要人を取り込むことに成功した。このリストには、ムバーラク政権時代の大臣経験者や軍、警察や諜報機関の元幹部が名を連ね、コプト教徒の億万長者ナギーブ・サウイーリス(Naguib Sawiris)が創設した自由エジプト人党(Free Egyptians)を含む10政党が参加している。サーメフ・セイフ・アル＝ヤザルは、「エジプトへの愛」リストは議会で大統領を支持すると宣言し、同リストは、政党リストに割り当てられた120議席全てを獲得した。また、「エジプトへの愛」リストは議会に対するスィーサーの統制力をさらに強固なものにしようと、議員の3分の2を含む「エジプト国家連合」を作るため無所属議員と協定を結ぶことにし、その協定の調整が最終段階であることを公表した。その結果、エジプト議会の多数派がスィーサー政権を強力に支持することが予測され、議会不在時に大統領令によって発布された180以上の法令を承認すると見込まれている。

現在のエジプト議会では、政党が脇に追いやられ、明確なイデオロギー、所属政党や政治プログラムを持たず、私的な経済利益と政治的影響力を追い求める個人で占められている。これは議員連合を作ることを困難にし、エジプト議会を大統領翼賛体制に変貌させている。

議会は、スィーサーとその前任のアドリ・マンズール(Adly Mansour)が大統領令で発布した法案を、2週間という限られた期間で審議しなければならない。2014年憲法は、議会不在の状況で大統領に法律を制定する権限を与えた。スィーサーが制定した法律の主な目的は、独裁体制の強化と、「テロと戦う国家という名声を取り戻す」という名目で合法的に反対勢力を抑え込むことだった。例えば最高憲法裁判所に議会を解散させる権限を与え、大統領に忠実な議会を作るため選挙法は無所属議員を増やすよう改定された。また、軍、司法当局および治安機関は予算と給与が引き上げられ、権限が強化された。さらに、大学の学長選挙や学部長選挙は廃止され、大統領令によって任命され

るようになった。抗議運動規制法とテロ対策法の制定によって、個人、NGOや非営利団体による政治活動は非常にリスクの高いものになった。このような議会のもとでは、軍、警察、官僚機構、司法機関といった国家機関がさらに強化されることが予想される。大半のエジプト国民、特に若者は表舞台の政治から排除され、持続可能で安定した政治システムの構築が妨げられることになるだろう。

おわりに

現在のエジプトの政治的弾圧と言論の自由の抑圧は、ムバーラク政権末期の状況よりも悪化している。2010年と2015年の議会選挙には幾つかの共通点がある。2010年の選挙時も、政権はムバーラクの国民民主党に有利なように選挙を操作し、反対勢力を議会から締め出した。現在のエジプトでは、ムルシーを追い出すために軍を支援した者の中にも、スィーサー政権と政治的見解が違うとして弾圧の対象になっている者もいる。若者が集まり政治や文化について意見交換をするカイロのタウンハウス・ギャラリーやラワーベット・シアター (Rawabet Theater) といった文化センターを狙って言論抑圧が行われている。また、治安部隊は、スィーサー政権と完全に政治的見解が一致しない著名人や研究者、ジャーナリストをも弾圧のターゲットにしている。表現、集会、結社の自由といった権利の抑圧は、エジプトにおける民主的な選挙プロセスを不可能なものにしている。

大統領独裁体制下のエジプト議会において、公式な野党は存在せず、イスラミストは完全に阻害されている。スィーサー政権は支配のツールとしてエジプトの治安当局と国家機関を最大限に利用し、2015年の議会選挙で政権の支配ツールとして機能する議会を作り出した。議会は、治安機関などの主要な国家機関からの強い支持を得ている者のみが占め、軍関係者とビジネスマンは、政治権力と経済利益を求めて争っている。今の議会では、元警察官と軍人が、エジプトの議会史上で最も多い75議席をも占めている。さらに、エジプトの主要な国家機関である軍、警察そして裁判所は、議会から憲法上も法的にも守られている。このため、大統領は実質的に議会に縛られることなく統治することが可能であり、議会は政治制度、ましてや治安機関や司法セクターの改革を行う手段をもたないのである。今の議会も、政治的理由で裁判所に憲法違反のレッテルを貼られ解散させられる危険にさらされている。スィーサー体制下のエジプトでは、選挙で選ばれた議会ではなく軍をはじめとする国家機関が実権を握っているのである。

議会選挙の終了をもって、2013年7月にスィーサーによって発表された民主化への「ロードマップ」は完了した。しかし、エジプトでは、経済の停滞、低賃金、若者の失業、食糧価格の高騰が蔓延し、政治参加の余地はますます狭まり、警察の暴力に対する国民の憤りが高まっている。真の政治改革と経済改革なしで名目的に「ロードマップ」が完了しても、エジプトの安定は脅かされた状態にあり、エジプト国民にとっての希望の光は未だ見えないのである。

(2015年12月27日脱稿、ダルウィッシュ ホサム)